**令和５年度　新居浜市総合教育会議　会議録**

１　開催日時　　令和６年３月２１日（木）１０：００～１１：００

２　開催場所　　市庁舎３階　市長応接会議室

３　出 席 者　　新居浜市長　石川勝行、教育委員会教育長　高橋良光

　　　　　　　　教育委員会委員　尾藤一彦、近藤智佳、本田郁代、大橋勝

　　　　　　　　企画部長　亀井利行、教育委員会事務局長　木俵浩毅

事務局

教育委員会事務局次長、教育力向上推進監

社会教育課長、学校教育課長

　　　　　　　　　総合政策課長、総合政策課副課長

４　会議事項　　（１）部活動の地域移行について

（２）その他

５　会議録

|  |  |
| --- | --- |
| 企画部長市長企画部長市長教育委員会事務局市長近藤委員尾藤委員本田委員教育委員会事務局本田委員大橋委員教育長市長尾藤委員大橋委員教育委員会事務局大橋委員市長教育長教育委員会事務局教育長教育委員会事務局教育長市長教育委員会事務局市長近藤委員教育長本田委員尾藤委員大橋委員教育長市長 | それでは定刻になりましたので、ただいまから令和５年度新居浜市総合教育会議を開催いたします。まず初めに、会議公開の取り扱いについてでございますが、本日の会議につきましては、非公開とする内容はないと考えられますので、原則通り、本日の会議を公開とし、途中、傍聴希望があれば、傍聴等を許可したいと思いますが、よろしいでしょうか。それでは、会議の開会にあたりまして、主催者であります石川市長からご挨拶を申し上げます。本日は大変お忙しい中、お集まりいただきまして誠にありがとうございます。新居浜市総合教育会議の開催にあたりまして一言ご挨拶を申し上げます。教育委員の皆様におかれましては、平素より、本市教育行政の推進に格別のご理解・ご協力をいただいておりますことに対しまして、厚く御礼申し上げます。新居浜市総合教育会議は、首長である私と教育委員会の皆様が、十分な意思疎通を図り、本市教育の課題や、目指すべき姿をともに共有し、連携して効果的な教育行政を推進していくために設置しているものでございます。本日は、部活動の地域移行について、意見交換などを行っていただく予定でございますので、委員の皆様におかれましては、忌憚のないご意見を賜りますようお願い申し上げまして開会にあたっての挨拶といたします。よろしくお願いいたします。ありがとうございました。会議の進行でございますが、この会議は市長が主宰するという形になっておりますので、これからの進行は市長が進行いたしますのでよろしくお願いいたします。それではこれより進行を務めさせていただきます。本日の協議事項は、「部活動の地域移行」についてでございます。中学校の部活動は、スポーツや文化芸術に親しむ機会を確保し、体力や技能の向上を図るだけでなく、生徒の自主性を高め、生徒同士や教員等の人間関係の構築に寄与し、また、学習意欲の向上や自己肯定感、責任感及び連帯感の涵養に資するなど、学校生活において、様々な面で大きな役割を担っています。しかしながら、近年、少子化の影響による部員数の減少等により、生徒が希望する部活動に参加できない学校があることや、教職員の長時間労働の要因の一つとして考えられる部活動の見直しを図るため、部活動の地域移行が全国的に進められております。教育委員会事務局より、本市の部活動の現状、地域移行の動向について説明をしていただき、地域移行への課題、今後本市が取り組むべき方向性等について、皆様のご意見を伺いたいと思います。それでは、教育委員会事務局から説明をお願いします。（資料を基に説明）教育委員会事務局から説明がありましたが、ただいまの説明に関しまして、ご不明な点も含め、ご質問やご意見ございませんでしょうか。部活動の地域移行は教員の働き方改革という意味からも大事だなと思っています。先生の中には、部活がしたいから学校の先生になりましたという方も話を聞くが逆に、部活動があるのでしんどい、やったことない部活で負担が多いという方もいると思う。子どもにとってもやりたくないのにやっている先生と一緒にやるというのは辛いと思うので、地域移行はぜひやっていかなければならないことだと思う反面、新居浜市は上部、川西、川東と、エリアが遠いという問題があるので、例えばバスを使うとか、保護者が負担なく、クラブチームに行けるということも考えながら、熊本のように学校の中に人々を入れていくというのと同じように、両方並行しながら考えていく必要があると感じております。中学生の子どもがソフトテニスをしていることから、地域移行になる場合に、どういうことが懸念されるのかをいろいろ考えるが、かなり問題あるなと思っています。まず、教員の負担軽減という目線で考えるのか、子どもたちの目線で考えるのかで、また違った側面が出てくると思う。一つは、子どもたちも親もだが、競技に対する目的が違う方が多い。上を目指してどんどん運動したいっていう方や、基礎体力の向上を目的とする方、みんなと一緒に仲良くしたいというような方など、子どもや親によっても考え方が違っています。どういうことが現場で起こっているかというと、休む間もなくいっぱいやって、どんどん練習しましょうっていう方もいらっしゃいますし、それはちょっとやり過ぎでもう少し子どもをゆったりさせたいというような方もおられる。現場としては、地域のスポーツクラブも大会の参加を認められ一般の中学校がなかなかそういったところで、成績を収められないというなこともあったりして、いろいろ問題がたくさんある。できるところからしていくとそこでいろんな問題が出ていくので、ぜひ本来いろんなスポーツを子どもが挑戦できる環境を与えるということと教職員の負担軽減というところがあるのであれば、デザインを決めず、問題をつぶしながらではなかなか難しいのではないかなと考える。先日行われた研修の際に、部活の地域移行について話を聞いたが、各市町村がコンパクトな市町村なのか、南北に長いと学校が終わった後みんな集まるといってもどこに集まるのか、そういう問題もあって、非常に難しく、それぞれの地域で独自性を生かしながら、考えていく必要があるなというふうに改めて思いました。私としては、ぜひグランドデザインをしっかりさせそこに向かって、取り組んでもらいたいなというふうに思います。説明を聞くとまだまだ今からだなって気がするが、国から令和５年から７年の委託費用を見てもらえるがそれ以降は、各地域の負担になるのか。そこはまだ何も示されてない。交付金でお金が入ってくるかとか、委託事業を継続するかも決まってない。モデル事業をやっていくにはいい事例を集めて、全国に普及する取り組みを行っている最中で、その予算的な支援、人的支援スキームの話も、国が方向性を決めてくれるわけではないので、各自治体の方がいろいろ迷いながら取り組みを進めているところになります。今の話でも、やはり人を集めるにしても、場所を決めるにしても、資金繰りっていうのが一番の問題になると思います。先ほどのモデル地域のように、8,000円のお金を保護者が負担するっていうことになると、現状では、子どもに差ができると思います。それを確保できるご家庭は、いろんなところへ連れて行き、いろんなことを受けさすことや経験させることができますが、やはり、それがなかなか負担になると考えられるところでは、クラブをできないというふうなことになると、大変格差が出ると思う。その辺のところも考えていかなくてはいけないと思いますので、国にも要望していただくし、やはり地域としても、お金を工面して、保護者負担をあまりかけないような形でしていかないと、格差ができるなというふうな気がします。同様に考えるが、支援員に対する手当、予算が切れるとなると、持続可能な地域移行型の活動が難しいだろうと思います。ボランティアだけでというのは難しいと思うので、予算がこれからもあるという前提でないと、望めないと考えます。国は令和5年度から7年度でやり切るぐらいの勢いで立ち上げたが、現状では、あとは市町の努力のような形となっており、なかなか進めていくのが難しい。人口11万人の同規模の掛川市では、保護者負担が、この8,000円他にも遠征費や器具の購入、ユニフォーム等の購入、人件費等を考えると、教育として、どこまで子どもの格差を支えていくか、大橋委員さん言われましたけどボランティアでは持続可能な移行にはなりにくい。今後も、国の動向を注視するとともに、教育長会議等でも要望はしていきたいと思う。委員の皆さんの意見を聞かせていただき、指導者の確保と財源が必要と考える。指導者を確保するためにもお金が要る。そこら辺の考え方を示していただかないと、なかなか議論しても結論が出ないと思われる。また、委員さんの言われた中に地域クラブがすでにある競技も存在し、レベルの高い部分を求める人は、すでに加入している。その点を考えるとみんながみんな地域移行するのがいいのか、体育を充実させ、体育の授業で基礎的な運動能力を養ってもらい、それ以上のものを求める場合は、自己負担で地域のクラブに入っていただくというふうなことも考えないと財源が持たないのではないかと感じる。山口市の場合、南北に広いため、集まって地域移行ができるのかという話がある。平日は、学校で体力づくりがメインのような練習をし、土日のうち一日集まって指導者に指導してもらうのが良いのではないかとの話があった。それとは別に静岡では、クラブチームの受け皿がたくさんあり、交通の便もよく、お金の面の問題はあるしろ、選ぶことが可能である。バスケやバトミントン、サッカーなどありとあらゆるクラブチームがあり協力的に考えていけるため、財源の問題だけであると考えられる。新居浜市の問題としては、指導者の問題や受け皿となるクラブチームの数が選べるほどあるのか、現在の地域移行は土日のどちらかをという話であるが、地域で一緒にと考えたとき、平日の放課後何ができるのか、平日は基礎的な練習をし、土日休日等で指導者を置いて部活動を行うという形が新居浜に合っているのかと考える。文化活動部の地域移行などは難しい面があるのではないか。吹奏楽部や合唱クラブなどは、音楽を専攻した先生が指導されていると思う。運動部は分かりやすいが、文化活動部は難しいと思う。文化活動の事例でいうと吹奏楽部などは楽器を運ぶことにもお金がかかってしまう。謝金も運動部活動に比べ高額である。やはりお金の問題は出てくるため、どのようにクリアできるか検討すべきである。ある程度学校レベルで充実させていくべきではないか。今すでに野球でも一つの学校では活動できず、複数校で活動している学校もあると聞いている。この学校では音楽を行うなど学校を特定し、そこに活動を行う生徒が行くとか、学校の受け皿を検討する必要もあるのではないか。国のモデル事業としてサッカー部の取り組みがある。事務局から説明をお願いしたい。上部地区で横断的に取り組んでいるサッカークラブです。上部地区の中萩、大生院、船木及び角野中学校の男子合同サッカー部で土日の活動を主に一緒に練習しています。四つの中学校の合同チームであるため、平日はなかなか集まれないので、平日は中萩と大生院だけ集まったり、角野と船木だけ集まったり、単独で練習したり様々な形で活動している。先生に伺ったところ、顧問が、行けない場合であっても、違う学校の顧問が見てくれるため、安心感がある。また、地域主導者も１人入っている。もう一つよかったところは、市のサッカー協会との繋がりで、高校の専門的な先生に河川敷のグランドで指導していただいている。市長が言ったようにこのような部活動の拠点方式や合同部活動を地域移行合わせて考えていく必要があると考える。背景には少子化の問題がある。私の中学時代からみると子どもの人数は半数になっている。今の中学生がちょうど１，０００人程度、この３・４年間で生まれた子どもの数は年間７５０人程度であり、ますます少子化は進んでいく。今後、指導者の問題もあるが、優遇する子どもの数が少なくなってくるため、部活動を行う上でもう一つ難しくなると考えられる。今、国のモデル事業を実施し、様々な課題の洗い出しを行っている。もう一つ事例の紹介をお願いしたい。　もう一つは金栄小学校で行っている新居浜クラブユースというものです。これは、バレーボールのジュニアクラブで地域で指導してもらうものです。ここでも他のバレーボールの関係との繋がりで、高校と練習試合や他市のチームと練習試合をしている。練習は土日のどちらか一日行う形で進められております。このジュニアクラブは母体がしっかりしており、現在、南中１２名、中萩中５名、東中１名と幅広く受け入れ、受け皿としてはこのような形が理想的と考える。先ほどのサッカーは部活動をベースとし、合同で行う形で、バレーボールは受け皿のクラブチームが母体なるケースです。今この二つを国の事業とし取り組んで課題や成果、洗い出しをしている。この指導者の経費は国がみてくれているのか。国の経費で事業を行っている。地域移行、地域連携について今後検討していく中で、財源の問題や体制の問題等について、庁内でいろいろ議論を進めていきたいと思います。それでは、先月、教育委員の皆さんが大阪へ先進地視察に行かれたことについて、それぞれ皆様の感想やご所見を伺いたいと思います。どの地域もそれぞれ取り組みが素晴らしく全部取り入れたいと思った。堺市で見せていただいた眠育教育に非常に興味を持ちました。高校生の子どもがいるが、本当に寝ない。理由はいろいろあるが、どこの家庭でも子どもが寝ないということには非常に苦戦してる。堺市の先生に取り組みを聞いたところ、費用もそんなに掛からずできるという回答でした。子どもたちが自分でどれだけ寝たかとかを記入しそれを使って、ちょっと寝てないとかそういう子たちには声掛けするというような対応であるため、先生の負担も少ないとのことでした。もう一つは、不登校についても、この眠育の取り組みをしていく中で、どうして学校に来れないのかそういう直接的な質問ではなく、最近寝れてないがどうしたのかというような、声掛けからいろいろ子どもたちの問題が、先生に伝わる。そこをきっかけに様々な方向からアプローチできるように専門家につなげていく。基本的な寝るということにフォーカスするだけで、いろいろ子どもたちの健康、不登校そういったものに、アプローチできるというのを聞き、ぜひ進めていただきたい。一石二鳥三鳥になることも考えられるので、ぜひ前向きに考えていただきたい。早寝早起き朝ご飯にぐっすり寝ようで進めたいと考えている。寝屋川市のいじめの解決に向けたアプローチっていうことで、未来館モデルっていうものがあった。これは教育委員会の内部だけでは、解決が長引いているようないじめ対応になっている。新居浜市もいじめの解決が継続している案件が何件かあり、伺ってみると、やはり生徒同士は解決しているが、保護者が絡むと人間関係が問題で長引いているような案件がありました。寝屋川市の場合は行政的アプローチということで、第三者の方に介在してもらうということをされている。監察課っていうのを設けて、いじめ対応をされているということでした。このメリットは、教育的アプローチ、委員会や学校関係で解決を目指していると、それぞれに具体的な対応はできると思うが、それが、デメリットのところにあるように人間関係を再構築していく上には、長い時間がかかる。一旦こじれたものを直すには、大変時間がかかり、それがかなり教育活動の負担になっていると思います。そういったところを、行政的なアプローチで見ていただけると、人間関係の再構築が早くなるんではないかと思い、これは、いい取り組みだなと思いました。それともう一つ堺市の方で取り組んでいる授業を見せてもらいました。ICTの環境を使って同時に授業を行っていました。1人の先生がコーディネーターになり、２校のどちらの学校でも授業をし、まとめの授業を、ICTを使って同時に授業を行っていた。このような、授業環境を作るということも、今から小中連携や統廃合していく中で、大変役立つのではないかと思いました。直接交流する機会は、たまにはあると思うが、授業の中で、交流を行うことに対し、大変新鮮であった。２名の教育委員さんから言われたように、いじめ対応の監察を持つということ、教育的なフォロー、二つの道筋を持つということは非常に素晴らしいなと思いました。ある程度以上こじれた場合はもうそちらの監察室の方ですべて見ていただくということで、教員の方の負担とか、うまく進んでいかない部分を、行政の方でやっていただくことは、素晴らしいことだと思います。眠育につきましても、予算がかからない中で、寝るということに対してそういった病気であるということから、アプローチを医学的な方向からも、睡眠をしっかり取っていかなきゃならないということを皆さんにお知らせをする。非常に素晴らしくお金もかからないので、ぜひ、お願いしたい。義務教育学校につきましては、ちょっといろいろ厳しいなというふうに思いました。1学年から9学年ということで、確かに小学校一年生を中学校3年生がお手を引いてことは微笑ましく、校内でいろいろ交流があるということで素晴らしいなと思いましたが、一般的に考えると、入学とか卒業とか修学旅行とか、いろんな問題があり、本当に先駆け的な取り組みではあったが非常に問題もあるように感じました。ただし、これから少子化を迎える形になりますのでこういう小中一貫という1校で義務教育学校というアプローチも、今後考えていく必要があるのかなと思いましたので、非常に参考になりました。ありがとうございました。皆さんおっしゃられたようなことになりますけど、いじめ対応の寝屋川市、新居浜市の場合でも、問題を見ると説得や、理解していただくことは難しいところもあると思う。この問題を行政的アプローチでという点では、先生方のストレスが随分なくなっていく形じゃないかとは思いました。参考になりました。次に、不登校児童が睡眠障害によって朝起きができない。そのためにグズグズで、朝ご飯も食べない。朝ご飯を食べないと、脳の活性が低下して、眠たくなります。授業に身が入らない悪循環です。だから、眠育は非常に大事で寝ている間に記憶力というのは構築されていく。だからよく睡眠とらないと記憶が良くならない。不登校が半減してるという実績があったので、大変注目しました。義務教育学校では、小中一緒の校区で過ごすような形であったが、問題を含んだ中でのスタートかなと思いました。貴重な意見をいただきました。これから取り組んでいきたいと思います。眠育につきましては、ぜひ教育委員会で相談し、進めていただきたい。本日は、皆さんからそれぞれのお立場や、或いは経験から貴重なご意見をいただきましたことにありがとうございました。部活動の地域移行と問題等につきましても、皆さんの貴重なご意見を踏まえまして、検討を進めていただきたく思います。他にございませんか。なければ、本日はこれにて閉会いたします。　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　以上 |